

**横浜市立四季の森小学校**  
平成30年度 学力向上アクションプラン

## 1 中期学校経営方針

### (1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>○一人ひとりの思いや願いなどを丁寧に受け止め子どもに寄り添いながら、温かな人間関係を育てていきます。</li> <li>○家庭や地域・幼保小中と連携し、保護者がわが子を通わせたいと願い、子どもが心から明日も来たいと願う学校づくりを目指します。</li> <li>○問題解決学習に取り組み共に学ぶ楽しさを実感しながら基礎的な学力を身につけられるよう、授業力の向上を目指します。</li> </ul>

### (2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野	取組目標	具体的取組
<b>確かな学力</b>	一人ひとりの児童の学ぼうとする意欲を高め、わかる授業、関わり合える授業、追究の楽しさのある授業を目指す。	①授業力向上のための授業研究会を充実させると共に、校内研修の充実を図り、授業改善や指導力の向上に努める。②教職員の共通理解の上、学習に向かう基本姿勢を身に付けるようにする。③ノート指導に丁寧に取り組み、一人ひとりの学習状況の把握と学習意欲の向上につなげる。④学習習慣が身に付くよう家庭学習を促す。
担当	研究部	

## 2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

### (1) 学力の概要と要因の分析

教科の学力は、全学年とも市平均を下回っている。しかし、6学年中4学年の学力が前年度よりもわずかではあるが向上している。教職員が共通理解の上、指導を継続してきたことで、児童の学習に向かう基本姿勢が身に付いてきていると考えられる。学習習慣を身に付けられるよう、今後も継続して家庭学習を促していく。

### (2) 教科学習の状況

- 国語科：全体的に市の平均を下回っている。第4学年の「話す・聞く能力」は市の平均を上回っている。
- 算数科：全体的に市の平均を大きく下回っているが、年々少しずつ学力が高まってきている。
- 社会科：第5・6学年は、前年度よりも定着率が上がり、体験的な活動が成果につながっている。
- 理科：領域によって市平均を上回っている単元もある。実験の技能が定着してきている。

### (3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

平成27年度から29年度過去3年間の経年変化の状況から、生活意識の「話したり、聞いたりして人とかかわるのが好きか」という設問で、「好き」と回答する子どもの割合が特に高まってきている。この設問と各教科の「勉強が好きか」という学習意識及び各教科の学力層とのクロス集計をみると、「人とかかわるのが好き」と回答する子どもについては、「勉強が好き」と回答する割合が高くなっている。関わり合える授業の実践によって意欲が高まってきていると考えられる。しかし、学習意識及び生活意識においては、下学年よりも上学年が、市の平均と比べて低い状況にあり、全体的に学力の高まりはわずかである。経年変化の状況から、今後一層、一人ひとりの児童のニーズやこの実態に合った、楽しく分かりやすい学習を実施することが必要であると考えられる。

### 3 平成30年度 学年・教科等としての具体的取組

#### 1 学年

- 各教科・領域で、説明する文章、紹介する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、できる限り対話をする場面を位置付ける。
- 分からないことや知りたいことを尋ねたり、気持ちを言葉で表したりしながら対話するように指導する。
- 自分の経験と結び付けて、感想や考えをもち、相手に伝えられるように指導する。

#### 2 学年

- 体験を通して自分の生活について考えられるよう報告する文章や説明する文章を書くなど、表現活動を大切にす。
- 自分の考えを分かりやすく相手に伝えられるように、大事だと思った点を確かめたり、友達の話聞いて考えたりしながら話し合うように指導する。
- 自分の経験と結び付けて、感想や考えをもつように指導する。

#### 3 学年

- 説明する文章、記録する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、話し合いをする場面を位置付ける。
- 理由や根拠を尋ねたり、まとめたり補足したりしながら話し合うように指導する。
- 国・算を中心に基礎力が身に付くように反復練習をする。

#### 4 学年

- 説明する文章、記録・報告する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、対話をする場面を位置付ける。
- 自分の考えとの共通点や相違点を考えながら相手の話を聞いたり、相手に伝わるように自分の思いや考えを述べたりしながら話し合うように指導する。
- 順序を付けたり関連付けたりして考える学習を計画的に位置付ける。

#### 5 学年

- 各教科・領域で、説明する文章、意見を述べる文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、話し合いをする場面を位置付ける。
- 自分の思いや考えを友達と共有したり、資料を活用したりして話し合うよう指導する。
- 子ども自身が自分の学びを自覚できるように振り返りを計画的に位置付ける。

#### 6 学年

- 教科等の学習で今まで身に付けた様々な文章を書く力を自覚的に生かすことができるようにするとともに、対話をする場面を位置付ける。
- 児童自身が交流する目的をもって話し合えるように指導する。
- 関連付けたり、分類・整理したり、多面的に考えたりする学習と振り返りを計画的に位置付ける。

#### 個別支援学級

- 個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、話し言葉、表情、仕草、書き言葉等、発達段階に応じた適切なコミュニケーション手段を積極的に活用する場面を位置付ける。
- 子どもの発達段階に応じて、各学年の取組を参考にし、必要な取組を行う。
- 子どもに応じた分かりやすい情報発信をするなど、言語環境の整備を行う。